

けやき会通信

雨の朝巴里に伏す

前糖尿病・内分泌内科部長、櫛会顧問 水野 有三



会員の皆様、2年半振りですが、お元気にされていますでしょうか？私の「それから」は、また別の機会にお話できればと思いますが、転居先の千葉と、東京を歩き来しながら、糖尿病診療、高齢者診療を続けています。今夏9月初め、イギリスをドライブ旅行した後、華のパリに移動しました。翌朝、左眼の視野が突然欠け始め、半日でみるみる視野欠損が広がり、夕方には物が全く見えなくなっていました。診断は、網膜剥離で、直ちに硝子体手術を行わないと失明すると言われました。思案している暇はありません。発症翌朝にはパリ市内の大学病院に入院し、緊急硝子体手術を受けました。術後暫くは、うつぶせ寝が必須で、寝返りも禁止、起き上がる時も決して顔を上げてはならず足下だけを見て歩く事を指示されました。これが想像以上の苦痛でしたが、これで失明を免れるのならと自分に言い聞かせて頑張りました。(E.Taylor 主演映画の邦題を拝借しました)手術は成功しましたが、術後2週間は飛行機の搭乗を禁止され、この間、1日おきに眼科通院をしながらパリ市内で厳しい療養生活を送りました。幸い、視野は完全に戻り、視力も8割位戻っていますが、左眼の像が歪んでおり、改善しつつはありますが、当初はムククの「叫び」を見ている様な世界でした。外国で入院、手術という初めての経験も大変でしたが、何よりも、失明するかも知れないという不安と恐怖は想像を絶するものでした。「百聞は一見にしかず」という諺がありますし、人間は入ってくる情報量の83%は視覚からと言われている通り、例えば片眼であっても、視力を失う事の重大さは1日眼帯をしてみると判ります。片眼が不自由でも歩けるのではと思われるかも知れませんが、術後2週間、片眼生活をしていると遠近感が判らない事がいかに不自由で危険であるのか実感できました。階段は踏み外しますし、コップに牛乳を注ぐときに机に牛乳をこぼしてしまいました。ましてや、両目が不自由な方は・・・と思いながら、心と頭を過ぎったのは、ある櫛会の熱心な会員Aさんの事でした。

彼は、長年、他院で糖尿病を治療されていましたが、当院に転院されてきました。すでに両眼の網膜症が増殖網膜症にまで増悪しており、間もなく両眼失明の状態になり、大変苦労されました。自覚症状が出るまでは、きちんと眼科受診しておらず、その事を大変悔いておられました。それでも毎回糖尿病教室と櫛会例会に熱心に参加され、活発に発言されていました。糖尿病協会の糖尿病週間行事では、講演会場の演壇に立ち、糖尿病合併症予防の大切さを自らの体験を通じて啓発されていました。

皆様、胸に手を当ててお答え下さい。①糖尿病手帳あるいは糖尿病眼手帳を活用していますか？②定期的に眼科を受診し、眼底検査を受けていますか？③最後に眼底検査を受けたのはいつですか？まさか、1年以上経っていませんか？糖尿病網膜症による失明は、治療の進歩により、私が赴任した頃より半減し、年間3000人程ですが、HbA1c8%以上の方、病歴が長い方はリスクが高く、病歴25年以上の患者さんの8割に網膜症が認められます。診断方法や治療方法は著しく進歩していますが、眼科受診をしない事には始まりませんね。糖尿病網膜症による失明の最大の原因は、眼科未受診だそうです。皆さん、必ず眼科を定期受診され、眼底検査の結果は手帳に記載して内科医と共有して下さい！！